

一般演題 14-4

第1種装置で治療された患者の合併疾患調査

工藤美雪¹⁾ 土田知佳¹⁾ 木村 彩¹⁾
 石垣大介²⁾ 本田耕一³⁾

- 1) 済生会山形済生病院 ME機器管理室
- 2) 済生会山形済生病院 整形外科
- 3) 済生会山形済生病院 神経内科

【目的】

高齢化社会を迎え、高気圧酸素治療が行われる患者層も高齢化し、患者が抱えている合併疾患にも注意が必要である。そこで、当院における患者の動向と特性を特に慢性の合併疾患に着目して分析したので報告する。

【対象と方法】

当院では第1種治療装置（セクリスト社製 Model2500B）1台を用い、酸素加圧により治療を行っている。平成23年4月からの3年間に高気圧酸素治療を行った136例について、患者属性、治療状況、対象疾患および合併疾患を調査した。

【結果】

救急72名（53.0%）、非救急64名（47.0%）。男性97名（71.3%）、女性39名（28.7%）、平均年齢65.5歳であった。主な対象疾患は重症の急性脊髄障害が31例と最も多く、次いで、網膜動脈閉塞症が21例であった。年齢階層では65歳以上が58.8%、75歳以上の後期高齢者は30.1%であった（図1）。慢性合併疾患を有していた症例は101名（74.3%）であった（図2）。慢性合併疾患を有していた症例の内、複数を有していた者は76名（75.2%）、5件以上を有していた者は10名（9.9%）であった（図3）。内訳は高血圧が48.5%と最も多く、次いで、糖尿病25.0%、高脂血症24.3%であった。また、心疾患と脳血管疾患を合わせると31.6%であった（表1）。

【考察】

今回の結果より、年齢階層では65歳以上の高齢者が58.8%を占め、75歳以上の後期高齢者も30.1%含まれていた。また、合併疾患を有する症例が74.3%と圧倒的に多かった。その中で、糖尿病は一般集団における有病率が11.2%に対し、25.0%と高かった。高気圧酸素治療では、高齢かつ合併症を有する患者層を対象としていることを認識する必要がある。さらに、心疾患、脳血管疾患を有する症例も31.6%あり、治療中の症状の変化に注意が必要であると思われる。当院では、現在、治療中のモニタリングを行っていないが、今後、急変リスクに対し、安全に治療が出来るようモニタリングしながら治療する必要があると思われる。そのためにも、装置内で使用可能な専用機器の開発が望まれる。

【結語】

今後、高齢かつ合併疾患を有する患者の増加は避けられない。第1種装置で治療する際は患者の急変がありうることを認識し、モニタリングを考慮すべきであると思われる。

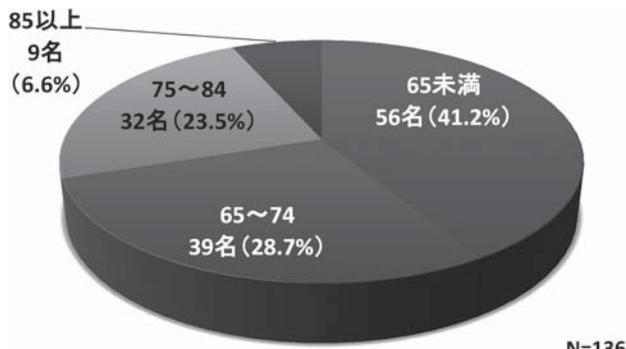


図1 年齢階層

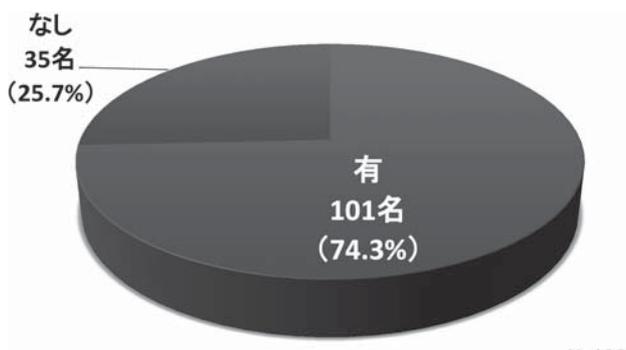


図2 慢性合併疾患の有無

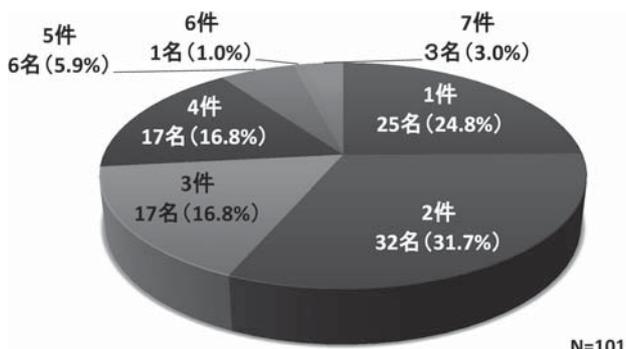


図3 慢性合併疾患数

表1 慢性合併疾患の内訳

疾患名	患者数	合併率% (N=136)
高血圧	66	48.5
糖尿病	34	25.0
高脂血症	33	24.3
心疾患	25	18.4
骨関節疾患	20	14.7
脳血管疾患	18	13.2
癌	12	8.8
動脈疾患	7	5.1
呼吸器疾患	7	5.1
消化器疾患	7	5.1
泌尿器疾患	7	5.1
精神疾患	6	4.4
高尿酸血症	3	2.2
皮膚疾患	3	2.2
その他	12	8.8